

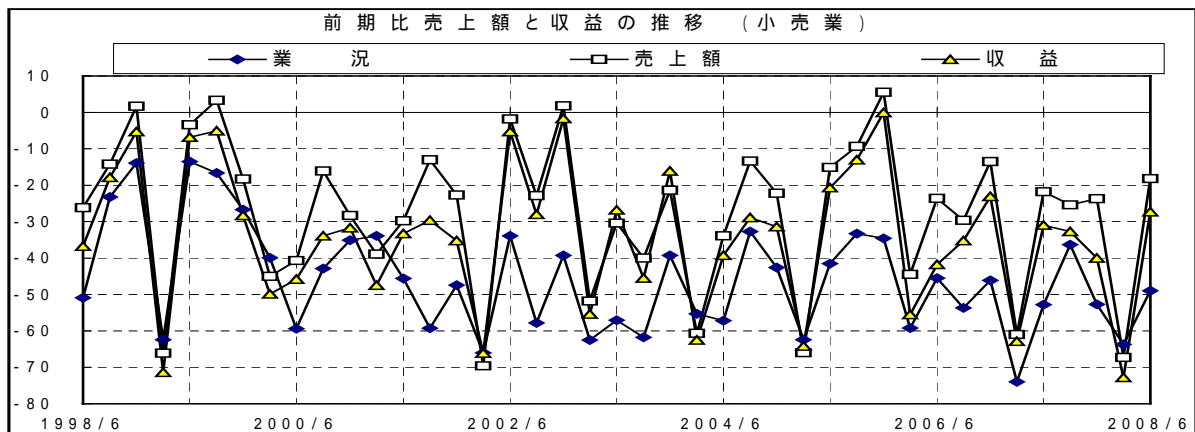
# 小売業 55 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

## 景況

| DI 値<br>の推移 | 10~12月<br>期実績 | 1~3月<br>期実績 | 4~6月<br>期実績 | 7~9月<br>期見通し |
|-------------|---------------|-------------|-------------|--------------|
| 業況          | -52.7         | -63.7       | -49.0       | -54.5        |
| 売上額         | -23.7         | -67.3       | -18.2       | -9.0         |
| 収益          | -40.0         | -72.8       | -27.3       | -21.8        |

今期の業況判断DI値は 49.0 と、前期比 14.7 ポイント改善したものの低い水準にとどまっている。地区別にみると、前期比浦河、静内、様似、広尾地区で改善し、三石地区が横ばい、えりも地区では悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額 18.2、収益 27.3 と、それぞれ前期比マイナス幅が大きく縮小し 49.1、45.5 ポイント上昇した。

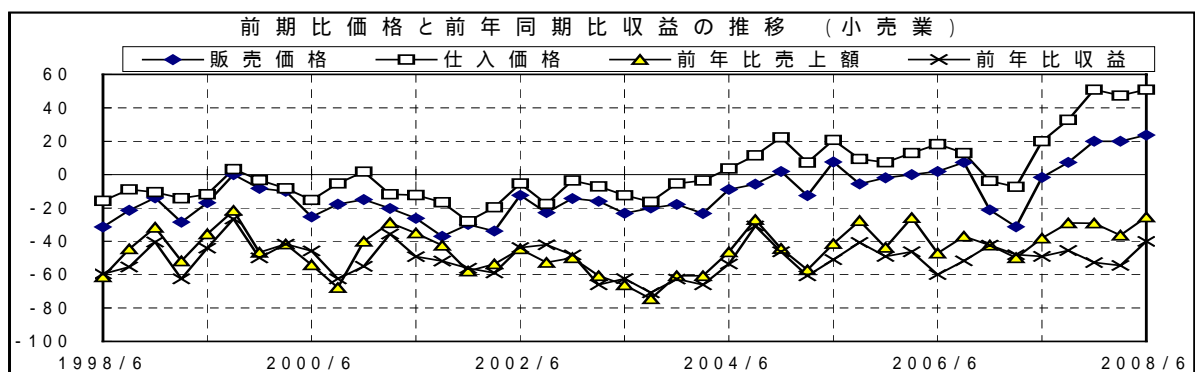


## 価格面の動き・前年同期と比べた動き

| DI 値<br>の推移 | 10~12月<br>期実績 | 1~3月<br>期実績 | 4~6月<br>期実績 | 7~9月<br>期見通し |
|-------------|---------------|-------------|-------------|--------------|
| 販売価格        | 20.0          | 20.0        | 23.6        | 20.0         |
| 仕入価格        | 50.9          | 47.3        | 50.9        | 32.8         |

販売価格判断DI値(23.6)、仕入価格判断DI値(50.9)は、それぞれ前期比プラス幅が 3.6、3.6 ポイント拡大、価格上昇基調が強まっている。業種別にみると、前期比販売価格判断DI値は衣料品、食料品、家電品が低下しそれ以外の

のその他業種で上昇、仕入価格判断DI値は衣料品が低下し家電品が横ばい食料品、その他業種で上昇している。



## 雇用面の動き

| DI 値<br>の推移 | 10~12月<br>期実績 | 1~3月<br>期実績 | 4~6月<br>期実績 | 7~9月<br>期見通し |
|-------------|---------------|-------------|-------------|--------------|
| 残業時間        | -3.7          | -7.3        | -5.5        | -7.3         |
| 人手状況        | -3.6          | 7.3         | -1.8        | -1.8         |

残業時間判断DI値は 5.5 と、残業時間が減少したとする企業割合が減少し、前期比 1.8 ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は 1.8 と、前期比プラスからマイナスに転じ 9.1 ポイント低下、人手不足感がやや強まっている。

## 設備投資の動き

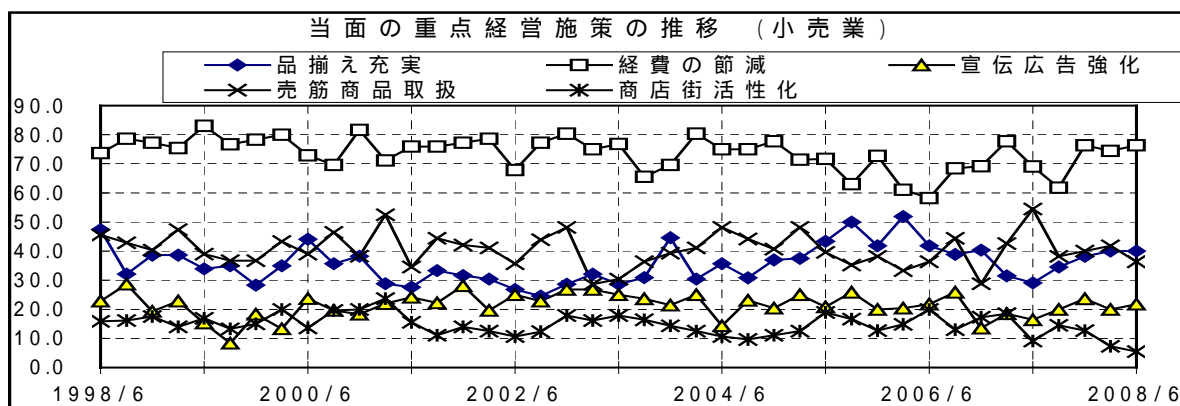
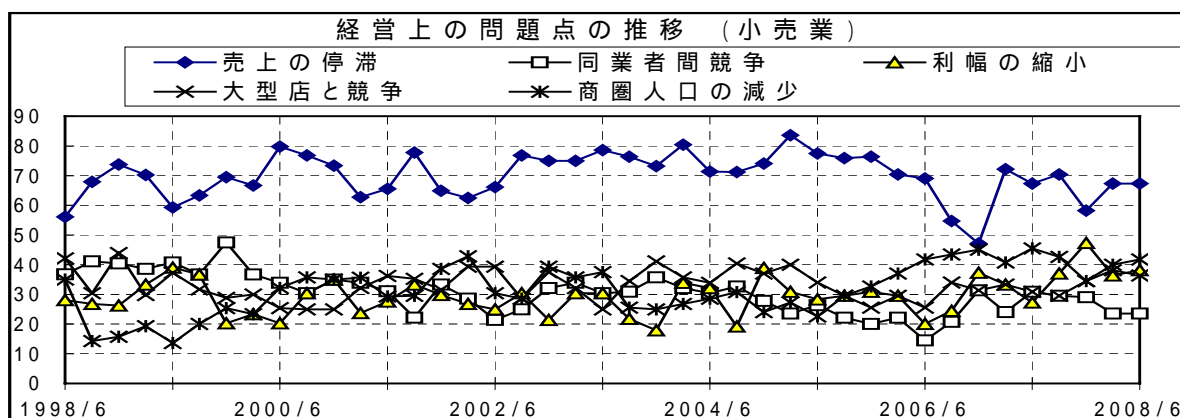
設備投資の充足感を示すDI値は 5.4 と、前期( 5.4)から不足感に変動がなかった一方、適正と回答した企業は80.0%で、前期(83.6%)から3.6ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は10.9%と、前期(9.1%)比1.8ポイント上昇し件数で前期の5社に対し6社の実施となった。一方、来期予定では当期比2社減の4社となっている。

## 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ67.3%、次いで「商圏人口の減少」41.8%、「利幅の縮小」38.2%、「大型店との競合」36.4%の順に続き、前期との比較でもさほど大差のない回答割合となっている。業種別にみると、衣料品が「売上の停滞」、「商圏人口の減少」、食料品が「売上の停滞」、家電品が「大型店との競合」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ76.4%、次いで「品揃えの充実」40.0%、「売れ筋商品取扱」36.4%、「仕入先の開拓」25.5%の順となっている。業種別にみると、衣料品が「品揃えの充実」、食料品、家電品が「経費の節減」をトップに挙げている。



## 来期の見通し

来期(20年7~9月期)の予想業況判断DI値は 54.5 と、今期( 49.0)実績比5.5ポイントの悪化を見込んでいる。

予想売上額、予想収益判断DI値は、売上額 9.0(今期 18.2)、収益 21.8(今期 27.3)と、それぞれ今期実績比9.2、5.5ポイント上昇を見通している。

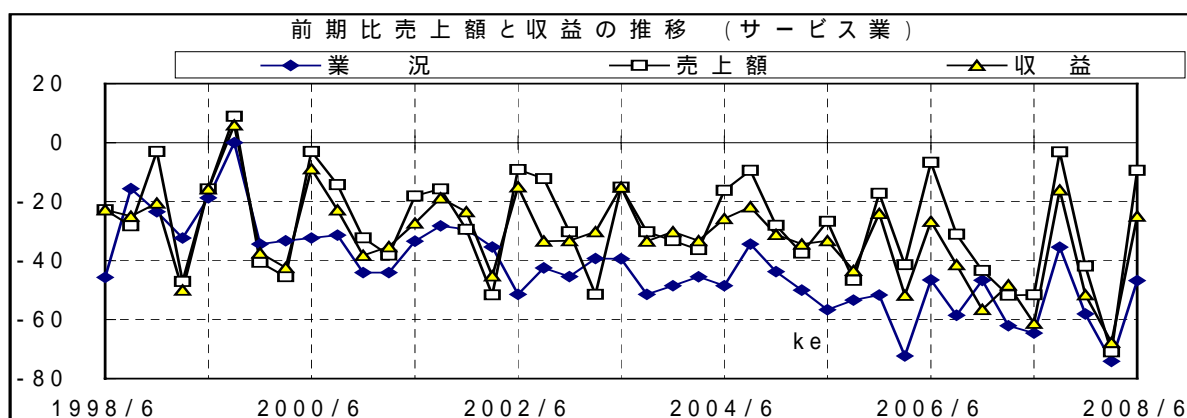
予想販売、予想仕入価格判断DI値は、販売価格20.0(今期23.6)、仕入価格32.8(今期50.9)と、それぞれ今期実績比プラス幅が3.6、18.1ポイント縮小、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

## サービス業 32 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

### 概 況

| DI 値<br>の推移 | 10~12月<br>期実績 | 1~3月<br>期実績 | 4~6月<br>期実績 | 7~9月<br>期見通し |
|-------------|---------------|-------------|-------------|--------------|
| 業 況         | -58.1         | -74.2       | -46.8       | -56.3        |
| 売上額         | -41.9         | -71.0       | -9.4        | -40.6        |
| 収 益         | -51.6         | -67.8       | -25.0       | -43.8        |

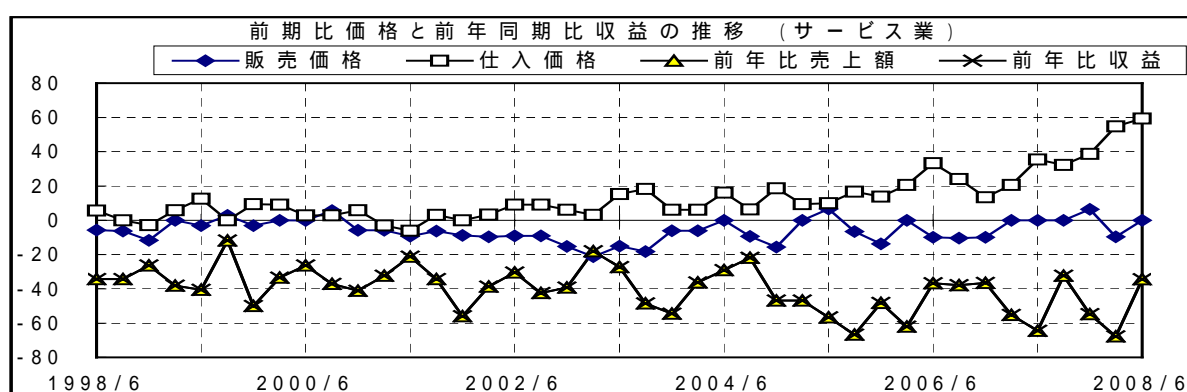
今期の業況判断DI値は 46.8 と、前期比大きく改善し 27.4 ポイントの上昇となったが、水準は依然低いものにとどまっている。地区別にみると、前期比静内、三石、様似、広尾地区で改善し、浦河地区が横ばい、えりも地区では悪化している。売上額、収益判断DI値は、売上額 9.4、収益 25.0 と、それぞれ前期比マイナス幅が大きく縮小し、61.6、42.8 ポイント上昇した。



### 価格面の動きと前年同期に比した動き

| DI 値<br>の推移 | 10~12月<br>期実績 | 1~3月<br>期実績 | 4~6月<br>期実績 | 7~9月<br>期見通し |
|-------------|---------------|-------------|-------------|--------------|
| 料金価格        | 6.4           | -9.7        | 0.0         | 0.0          |
| 材料価格        | 38.7          | 54.8        | 59.4        | 53.2         |

料金価格判断DI値(0.0)は、前期比価格低下基調を弱めマイナスからゼロ水準に転じ 9.7 ポイント上昇した。一方、材料価格判断DI値(59.4)では、前期比プラス幅が 4.6 ポイント拡大、価格上昇基調が強まっている。業種別にみると、前期比料金価格判断DI値は洗濯・理美容が低下し旅館、自動車整備で上昇、材料価格判断DI値は洗濯・理美容、自動車整備が横ばい旅館で上昇している。



### 雇用面の動き

| DI 値<br>の推移 | 10~12月<br>期実績 | 1~3月<br>期実績 | 4~6月<br>期実績 | 7~9月<br>期見通し |
|-------------|---------------|-------------|-------------|--------------|
| 残業時間        | -19.4         | -32.3       | -18.8       | -15.6        |
| 人手状況        | 6.5           | 22.6        | -6.2        | 0.0          |

残業時間判断DI値は 18.8 と、残業時間が減少したとする企業割合が減少し、前期比 13.5 ポイント上昇した。人手過不足判断DI値は 6.2 と、前期比プラスからマイナスに転じ 28.8 ポイント低下、人手不足感が強まっている。

## 設備投資の動き

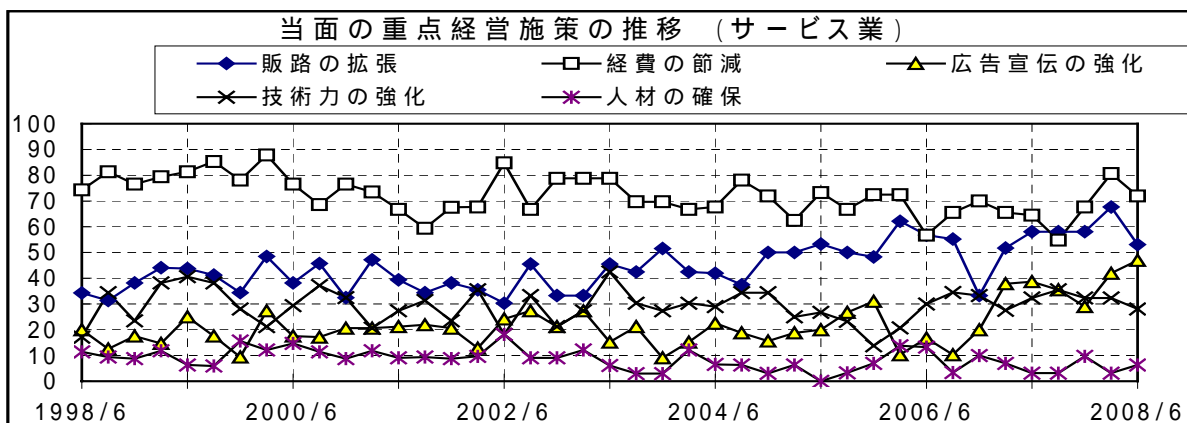
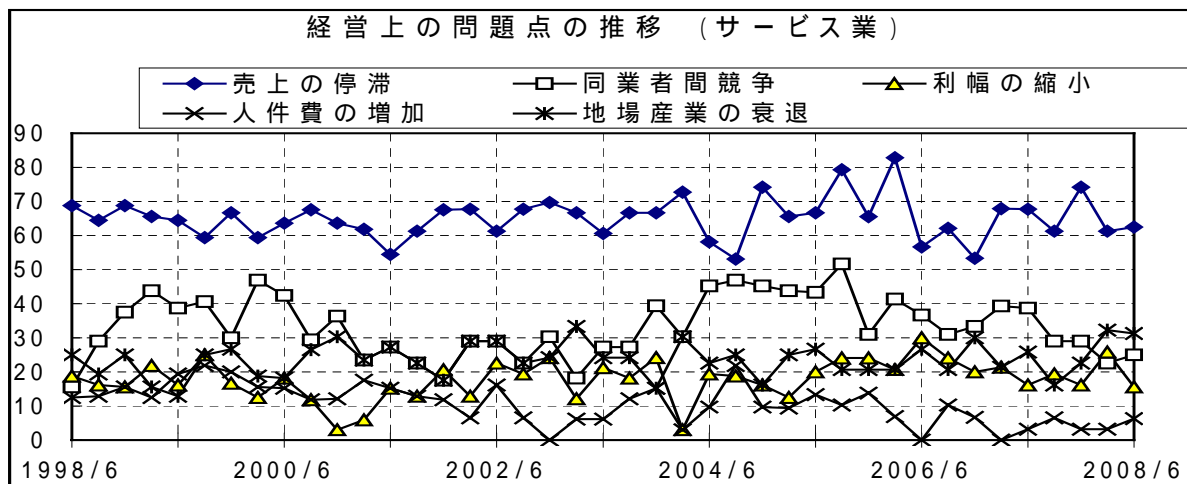
設備投資の充足感を示すDI値は 9.4 と、前期( 9.7) からマイナス幅が 0.3 ポイント縮小し不足感が極僅か弱まる一方、適正と回答した企業は 65.6%で、前期(64.5%)から 1.1 ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は 12.5%と、前期(6.5%)比 6.0 ポイント上昇し件数で前期の 2 社に対し 4 社の実施となった。また、来期予定ではさらに 2 社増え 6 社の実施となっている。

## 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ 62.5%、次いで「材料価格の上昇」50.0%、「商圈人口の減少」40.6%、「地場産業の衰退」31.3%の順に続き、前期との比較では「材料価格の上昇」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、旅館が「売上の停滞」、「材料価格の上昇」、洗濯・理美容が「材料価格の上昇」、自動車整備が「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 71.9%、次いで「販路を広げる」53.1%、「宣伝広告の強化」46.9%、「技術力を強化する」28.1%の順となっている。業種別にみると、旅館が「宣伝広告の強化」、洗濯・理美容、自動車整備が「経費の節減」をトップに挙げている。



## 来期の見通し

来期( 20 年 7 ~ 9 月期) の予想業況判断DI値は 56.3 と、今期( 46.8) 実績比 9.5 ポイントの悪化を見込んでいる。

予想売上額、予想収益判断DI値は、売上額 40.6(今期 9.4)、収益 43.8(今期 25.0) と、それぞれ今期実績比 31.2、18.8 ポイント低下し、特に売上額は大幅低下を見通している。

予想料金価格判断DI値は 0.0 と、今期(0.0)と変わらずゼロ水準見通し。一方、予想材料価格判断DI値は 53.2 と、今期(59.4)実績比プラス幅が 6.2 ポイント縮小、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。